

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401518		
法人名	有限会社 和敬会		
事業所名	グループホームたかき		
所在地	〒859-0117 長崎県諫早市高来町峰197番地		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	平成30年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyouCd=4270401518-00&PrefCd=42&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	平成30年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりのある人員体制ではなく、又設備環境においても十分とはいえません。目の前は季節ごとの田園風景が見られる片田舎の場所にありますが、格棟の職員が工夫をこらし、協力し合いながら入居者の方々が時間を縛られる事なく、個々のペースでゆっくりとした生活を送って頂き「ここに来てよかった」と思ってもらえるように日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い丘に位置するホームは、有明海や四季折々の田園風景が見下ろせ、また、利用者が集うリビングからは自然の明かりがたくさん差し込み、素晴らしい絶景が見渡せます。
グループホームたかきは、A棟B棟と玄関が別々でユニットが離れており、同じ敷地には同一法人のデイサービスが併設しています。
演奏会などの慰問を受ける際は利用者も一緒に交流され、また、近くの保育園からは定期的な園児の訪問もあり、利用者も心待ちにされるなど、長年の交流関係が継続されています。
職員は経験豊富で長く勤められている方が多く、それぞれの特性を併せ持ちながら、利用者へ寄り添ったケアに努められています。また、職員の団結力も固く、管理者を中心にやり甲斐が感じられる環境づくりに取り組まれています。
各棟の雰囲気や特色はそれぞれ違いますが、一人ひとりの生活習慣や特性を理解し、個々の能力が最大限引き出せるように役割を持ってもらい、尊厳を守ることを大切に考えられています。
「ここに来て良かった」と思える暮らし(本人本位)の実現を目指し、日々全職員でサポートされています。

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:「人と人とのつながりを大切に笑顔で寄り添い支えあい安らぎと誇りを持つ日々を」一人一人の日常生活のペースで過ごされるよう介護しています。訪問者の面会時間の制限もしていません。交流会等の訪問等の受け入れも積極的参加しています。	全職員で作られた理念は、現在も大切に共有しながら毎日の支援に繋がられています。一人ひとりの尊厳を第一に考え、職員は利用者の生活リズムに合わせながら日々寄り添い、家族のように接し笑顔を大切にされています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは行かないが、保育園訪問や慰問の声がかかれば、受け入れている	地域の人々からは、野菜のお裾分けなど頂く機会もあり、以前と変わらない関係性を保たれています。同敷地内にあるデイサービスに慰問がある時は、利用者全員で出向き一緒に参加されています。また、近隣の保育園からは定期的な訪問があり、園児との交流を毎回楽しみにされています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて取り上げている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各棟の職員が月替りで担当しており、会議後に記録にて全職員が共有、実践で活かせるよう取り組んでいる	A棟B棟が交代で会議を主催し、定期的に開催されています。利用者の状況報告だけでなくとまらず事業所の実情をしっかりと伝えした上で、相談や問題点など細かいことから話し合い、活発な意見交換が行われています。また出席されなかったご家族にも報告書を渡され、積極的に情報を発信されています。		
5	(4)	○市町との連携 市町担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者・ケアマネが窓口となり協力関係を築くように努めている	運営推進会議以外でも、分からないことや問題が生じた場合には、電話連絡や直接訪問され、助言やアドバイスを受けられています。行政側も迅速に対応され、協力体制が築かれています。また公的扶助を受給されている方には、定期的な訪問もあり、日頃から連絡を取り合いながら連携されています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開放し、夜間は安全確保の為に施錠している。ベッドからの転落・転倒等、事故防止の為に柵が必要な方は御家族に同意を得て使用している	抑制や行動制限はしない考えに基づき、日々努められています。職員は身体拘束に関する研修に参加し、運営推進会議でも議題に挙げられています。親しみやすい話し方でも、その方にあった言葉を選び威圧的にならないよう配慮されています。外に出られる時は、後方からそっと見守り、行動を遮ぎらないように努められています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修には参加していない為、会議で発生例を出し話をしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	受け入れの際、口頭にて全文章を読み、署名捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会や支払いに来られた際、話を聞いている。要望があった場合は申し送りに記入し、スタッフ会議にて共有し話し合いを行っている。又、ケアプランの変更や追加項目として反映させている	家族の面会時には、職員が利用者の近況を報告すると共に、要望や意見を聴取するように努められています。意見や苦情があった場合は記録し、職員会議で話し合いをした上で、業務改善へと取り組まれています。	面会時以外でも家族に要望や意見を聞く機会を設けたり、アンケート調査を活用したりするなど、より具体的な意見が抽出できる仕組みを検討されることを推奨します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は特別に時間は設けていないが、管理者を通し意見や提案の話をしてもらっている	職員会議では意見や提案を聞きとり、業務改善やサービス向上の実現に繋がられています。特に新人職員が孤立することがないように、日頃からコミュニケーションを図り、相談しやすい関係作りに配慮されています。職員から聴取した意見や要望は管理者がとりまとめ、代表者に報告されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全てにおいて努めているとは言いがたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は職員体制にゆとりがなく参加できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在は出来ていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	月に一度、担当者会議を行い意見交換・支援内容の見直しを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に聞いており、初回時ケアプランの支援内容の了解をもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人氏(困難な場合は、その方のケアマネ)御家族との面会をし話を聞いてアセスメントや情報提供書を活用。実際に入所されてから状態を把握し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、お手伝いが出来る方には食事の下ごしらえや洗濯物干し・たた・掃除と一緒にして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時、時間に関係なく一緒に過ごして頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会や、外出が出来るようにしている	お墓参りや行きつけの美容院など、家族の協力を得ながら外出支援をされています。病院受診の帰りに、その方が慣れ親しんだ故郷を回って帰られるなど、思い出巡りに繋がられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性がある為、見守りながら座る位置や食卓の配置にも考慮しトラブル防止に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あった場合は対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前からの生活スタイルを把握し本人氏のペースで生活して頂いている	入所前の段階で情報を収集し、入所後は情報提供書と利用者との会話を振り返り合わせながら、全職員に周知し、把握に努められています。日頃の何げない会話から思いや希望を聴取する他、それが困難な方は仕草や表情から思いを汲み取り、家族から聞くなどして過去の生活歴を元に検討されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人氏や御家族に話を来たいり、情報提供書を活用し把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での変化や、表情・記録にて確認している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の担当者会議で意見交換、話し合いを行いケアプランの作成や変更・追加を行っており、御家族へ説明し同意を得ている。又、かかりつけ医のDrからの指示があった場合も、支援内容に記載し作成している	本人・家族の意向を元に、立案した計画を職員会議で提案され、全職員からの意見や情報を取り入れながらプランを作成されています。目標の実現に向けた支援内容も明確で分かりやすく文書化されています。職員が毎日評価を行うことでサービス内容が見直しやすく、記録も工夫され現状に即した介護計画が見られました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を活用しケアプラン更新前であっても、その都度、変更・追加を行い支援内容を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	望まれる事は、出来る範囲ではあるが対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所者の高齢化に伴い、外出の機会が少ない。近隣の保育園児との交流や近所の神社等へのドライブ(花見)にて実行している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりかかれていた病院を受診して頂いている。特定の病院がない方は、協力医にて医療を受けられるよう支援している	入所前からの掛かりつけ医の受診は家族に依頼されていますが、付き添いが出来ない場合は、代行受診も可能です。緊急時は迅速に対応できるよう協力体制が築かれています。掛かりつけ医がいない方は、協力医による往診で、週に何度も足を運んで頂いており、利用者とも顔なじみの関係で安心して医療を受けられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や往診にて状態報告、又、変化時はかかりつけ医へ連絡をし指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネが対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に御家族へ確認し、かかりつけ医のDrと相談して頂く。状態変化あった場合は再度、話し合いを行っている	入所の際、家族にホームとして出来る支援体制を説明し、確認し合われています。身体状態の変化に伴い、段階的に家族やかかりつけ医と話し合い、ホームで受け入れられる最大限まで職員と情報を共有しあいながら対応されています。緊急時に備えて、24時間体制で医療機関と連絡を取り合い連携が図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な火災訓練は行っているが、災害時の避難訓練は昨年一度行っているがそれ以降は実施していない。火災を未然に防ぐ対策として自主検査チェック表を記入している	年2回、定期的な火災訓練を実施され、災害時に備えての備蓄の確保、火災予防として自主点検・検査が行われています。災害発生から避難誘導までの流れを実際に行い、対処法の確認を実行されています。	今後、継続的に災害時の訓練を行われる予定です。実際、地域の人々にホームの実情を理解して頂く為にも、情報を共有しながら協力体制を構築されることを推奨します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行っている	職員は一人ひとりの特性を理解され、言葉の掛け方も個々に配慮されています。家族のように接する中で、利用者の自尊心を引き出し、その人らしく暮らして頂く為に、役割を持って貰う取り組みもされています。排泄の際の失敗時は、迅速にさり気なく対応し、本人の気持ちに配慮した対応を心掛けられています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っているが認知症状の程度により困難な場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人氏のペースに合わせて支援しているが、帰宅願望や外出・受診等の要望に添えない場合は御家族に協力して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時折、入所者のリクエストに答えメニューに取り入れている。食事の準備や作業が(食材の皮むき・お盆拭き等)が出来る方には手伝って頂いている	正月用の干し柿作りや食材の下ごしらえなど、利用者と一緒に出来る事は積極的に取り組まれています。同じ食事を職員と利用者が一緒に食べることで、会話も弾み、楽しい時間となっています。ご飯をお代わりされる方や利用者同士が声かけあって助け合う場面も見られます。気分変えてレストランに食事に行く計画もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人氏の状態に合わせた食事形態にて提供している。又、Drからの指示に従い量の調整をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方へは声掛けにて促し、困難な方へは職員が支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えがない方は定時誘導を行う。(記録のチェック表活用)起床時と就寝前に陰部洗浄にて清潔保持に努めている。又、時間帯に合わせてパットの種類を変え対応している	各居室にトイレがあるため、時間帯によって混雑することもなく安心して排泄が出来ます。職員は一人ひとりの排泄間隔を把握し、自分でトイレへ行くことができない利用者には、タイミングをみながら声を掛けられています。残存機能を生かし、段階的に自力で出来ることを増やしながら、排泄の自立支援へと繋がられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用。毎朝食時にヨーグルトを提供しており、状態により水分補給の歳、牛乳を飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や回数は決まっていない為、本人氏の意向や体調を含め支援している	職員は入浴チェック表を見ながら、定期的に入浴ができるよう声を掛けられています。毎日お湯を沸かされており、入浴日も特に決まっておらず利用者が希望する回数も自由です。湯が多めが好きな方、一番風呂が好きな方、それぞれのニーズに合わせて対応されています。ゆず湯などの楽しみも実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを尊重している。夜間不眠傾向にある方に限りDrへ相談している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おおまかには理解しているが、はっきりしない場合はお薬表を確認。Drや薬剤師からの指示があった際は通院時記録や申し送りノートを活用し全職員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過ごされていた生活スタイルを尊重している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	御家族に協力して頂いている。	利用者の状態により各種での外出される頻度は違いますが、家族の協力を得ながら外出支援に努められています。天気が良い日は、ホーム周辺の散歩や外気浴など気軽に外に出られる事もあります。桜やコスモスなど季節毎の花見の他、数名の方は虫やイルミネーション見学と普段では行けないような計画もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理。必要時は使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴え時には対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下に装飾をしている。トイレは格居室を利用して頂いている	オープンキッチンからは利用者との距離が近くなるように工夫され、食事の準備の様子や匂いを間近に感じつつ、職員と利用者が顔を合わせながら会話を楽しまれています。また、リビングからは山や海が一望に見渡せ、季節の流れを直接感じる事ができ、量の部屋では洗濯物を一緒に畳まれたりするなど家庭的な雰囲気が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所があり、マイペースに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた布団や枕、家具、写真等、それぞれ置いて頂いており制限はしていない	ベットとダンスが備え付けられていますが、希望に応じて畳や布団を敷くこともできます。各棟に二人部屋が設置され、ご夫婦で入られることも可能です。自宅で使い慣れた家具に家族写真など、その方らしい部屋作りが確認できます。各居室には予め洗面台とトイレが備わっており、行動パターンを把握し動線を考えた配置にされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前プレートを張っている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事務所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と人とのつながりを大切に笑顔で寄り添い支えあい安らぎと誇りを持つ日々を」を理念に、保育園等交流会や、運営推進会などで実践している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流会			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会で活かしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議はA棟・B棟の職員が交替で担当し、会議後報告書で全職員で共有、実践に活かしている。			
5	(4)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者・ケアマネが主とし窓口になり協力関係を築くように勤めている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵は開放し、夜間は安全の為に施錠している。ベッドからの転落・転倒の事故防止の為に柵が必要な方は、ご家族に同意を得て柵を使用している			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で発生例を出し注意防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	受け入れの際、口頭にて前文章を読み署名捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会や支払いに来られた際、話を聞き要望があった場合は申し送りに記入しスタッフ会議にて話し合いを行い、ケアプランの変更や追加をし反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を通し代表者に職員の意見や、提案をしてもらっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しずつ改善されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足の為、協議会の研修は参加できていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在はできない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞き、月1回の担当者会議で支援内容を見直している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望を聞き、初回ケアプランの支援に了解をもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人・御家族と面会をし話を聞いた上、アセスメントや情報提供を活用しており、入所されてからの状態を把握している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの一員としお手伝いの出来る方は食事の下ごしらえ、洗濯物干し・たたみ、お盆拭き等して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、時間に関係なく一緒に過ごして頂き状態報告も必ず行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようにしている。又、ドライブ・食事に外出を楽しまれている方もいる		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りながら座る位置、食卓の配置も考慮しトラブル防止に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で会った場合等、情報交換し支援するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強制せず本人のペースで生活して頂いている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族に要望を聞き情報提供を活用し把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情、個人記録を確認し把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度の担当者会議で話し合い、ケアプランの変更・追加をし御家族への説明と同意を得ている。又、かかりつけ医の指示があった場合も支援内容に記載している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや記録を活用しケアプラン更新前でも、その都度変更・追加し見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢化により外出の機会は少ないが、保育園児との交流会を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より、かかられていた病院を受診されている方もいるが、ホームから遠い方は協力医へ変更して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や往診にて状態報告、変化時はかかりつけ医へ連絡し指示しを仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネが対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に御家族へ確認し、かかりつけ医と相談して頂き状態変化時は再度話し合いをおこなっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練は定期的に行っているが災害時の訓練は出来ていない。火災を未然に防ぐ対策として自主検査チェック表を記入している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを行い排泄誘導し、共同トイレではドアを閉める等、プライバシーに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には働きかけているが、認知症状の程度で困難な場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出・受診等、要望に添えない場合は御家族に協力して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時・起床時等、出来る方には任せている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時折、入所者の要望を聞きメニューに取り入れている。食材の皮むき、お盆拭き等できる方には手伝って頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせた食事提供を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けにて促し、困難な方は職員が対応している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	訴えない方は定時誘導促す(チェック表活用) 起床時・就寝前に陰部洗浄し清潔保持に努め、 時間帯応じてパットの種類を変えて対応している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用。朝食時にヨーグルト提供し状態により、水分補給時は牛乳を飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や回数は決まっていない。本人の意思や体調を含め支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを尊重し、夜間不眠傾向の方はかかりつけ医へ相談している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おおまかには理解しているがハッキリしてない場合はお薬表を確認。Drや薬剤師からの指示があった場合は通院時記録や、申し送りノートを活用し、全職員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を持って頂いたり話の中で楽しみ事を見つけ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	御家族に協力して頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理。必要時は使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	高齢により、目が見えないと言われる方は職員が代筆する支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには装飾で季節感を出している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居場所があり、マイペースに過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具・御家族の写真を置いて頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に写真付き名前プレートや場所の表示 (お風呂・トイレ)をしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				